

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2795000054		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから吉田本町		
所在地	東大阪市吉田本町2-2-12		
自己評価作成日	令和3年6月16日	評価結果市町村受理日	令和3年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居者の方が安心して楽しく過ごして頂けるように職員は日々の関り・気付きを大切に支援に努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体の法人は、大阪を中心に18か所のグループホームと小規模多機能居宅介護型施設2か所を開設し「心(こころ)と体(からだ)の両面を大切に」という法人理念を活かし、「ここから〇〇」という共通の名称にしている。当事業所は、平成20年10月1日に開設し、本年で13年目を迎える。当初から地域との交流を活発にするなど地域に根差した活動が行われ、毎週開催する法人経営者との会議や業務推進会議などで法人の運営方針が徹底されている。勤務年数が短い職員が多いため、職務遂行に必要な研修の受講以外に、事業所独自で利用者の気持ちを体感する模擬研修を企画するなど職員育成に力を入れている。管理者は「職員の楽しみは、利用者が楽しんで暮らせることに繋がる」という考えで、職員との話し合いを重ね利用者サービス向上に繋げている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域における家庭的な環境とケアサービスの提供、地域からの信頼を構築していくことを方針にし事業所に掲示している。	事業所は、法人理念とは別に「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活を提供していきます」という独自の理念を作成し、法人理念は玄関に、事業所理念は事務室に掲示している。勤務年数が短い職員が多く、管理者は職員間で理念の理解に温度差があると認識しており、新たな理念を職員全員で話し合っって作成することを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入。自治会の方に運営推進会議にご参加いただき地域と交流が図れるように努めている	地元の自治会には事業所開設以来加入し、地域行事(カフェ、秋のたんじり祭りなど)に利用者も参加し交流を深めている。現在、コロナ禍で交流は自粛しているが、自治会の広報紙や、運営推進会議に参加している自治会役員からの地域情報を通じて情報を把握し、地域との関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、外部の方に参加はしてもらえないが、毎月、カフェを開催。カフェを通じて認知症の方への理解を深めてもらえるように。交流の場が設けられるように努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の状況・取り組みを説明報告している。ご家族間での交流の時間もあり、頂いたご意見を実践で活かせるように努めている。	会議は、2か月毎に全家族、地域包括支援センター職員、自治会長、自治会婦人部部長に案内し開催している。現在コロナ禍で、令和2年10月以降書面会議で開催し、入居状況、職員勤務状況、事故報告、苦情相談内容、研修参加について報告がされている。会議内容は、職員に回覧し周知を図っている。	コロナ禍で、書面会議での開催にしているが、会議構成メンバーへの資料送付に留まっている。このような状況の中でも構成メンバーからの意見・要望の収集を積極的に図り、事業所運営や利用者サービスの向上に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の事業所連絡会や研修に参加し協力関係が築けるよう取り組んでいる。コロナ禍の為、現在は中止しているが介護相談員の方にも毎月、来館してもらえるよう取り組んでいる。	市の窓口とは、関連書類の提出や、生活保護受給者の状況などについて、連携して対応している。日常は地域包括支援センターと連携を密にし情報共有を図っている。毎年市が主催する事業所連絡会や研修会にも積極的に参加し、協力関係を継続し、事業所運営に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体だけではなく言葉の拘束がないかスタッフ間で話し合いを行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を定め、3か月に1回「身体拘束廃止委員会」、年に2回「身体拘束研修会」を開催している。現在まで、身体拘束した事例は無いが、利用者への「スピーチロック」にならない声掛けについて、職員間で常に情報を共有し適切に対応するように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、日々の業務で虐待に繋がらないように支援を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定毎に資料を送付し、ご入居時には十分に説明を行い、ご理解・納得がいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽にお声をかけていただけるように雰囲気づくりに努め、ご家族の方からご意見を頂いた時には朝礼や会議でカンファレンスを行い運営に反映が出来るように努めている。	意見箱を玄関に設置するとともに、運営推進会議や家族の面会時及び毎年6月に家族と共にバーベキューを楽しむ際に意見・要望を聞くように心掛けている。コロナ禍でも、家族からの要望があれば玄関での面会が出来るようにしている。把握した要望・意見は月に1回開催する職員会議で情報共有し、事業所運営に反映するよう努めている。	コロナ禍においても、家族の面談をコロナ対策を講じ可能な範囲で対応しているが、面会を自粛する家族もいる。日頃の利用者の様子を定期的に知らせ、家族の安心に繋がる手段を検討し、対応されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は週1回の会議の場で意見を聞く場を設けている。管理者としては日々の中で職員からの声が聞けるように努めている。	管理者は、年2回の人事考課時の面接や毎月の職員会議、また、日頃の業務を通じて職員の意見・要望を聞くように心掛けている。勤務年数が短い職員が多いことから、利用者一人ひとりの支援方法や対処についての相談や提案が多いが、管理者は丁寧に応えるように努め職員との信頼関係の構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、一人ひとりの勤務形態に柔軟に対応が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修。外部への研修はコロナ禍の為、控えているが機会があれば参加が出来るように配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市の事業所連絡会に入会し、定期的に勉強会に参加している		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の相談時・面接時にご本人・ご家族からお話を聞き、安心・信頼していただけるように関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の相談時・面接時にご本人・ご家族からお話を聞き、安心・信頼していただけるように関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内で行える体験入居の説明。また必要に応じて他の介護サービスの案内を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げている。ともに生活者として支援が出来るように日々のコミュニケーションや一緒に洗濯たたみなどを行い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であるがビデオ通話や感染防止に努め玄関での面会や電話でご本人の状況をお伝えし共にご入居者の方の生活が支えられるように努めている。行事へご参加を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得て面会をご自由にしていただいている。	馴染みの場所は、行きつけのスーパーや和菓子屋などがある。家族や親族の誕生会には、家族の支援を得て参加するなど、個々の要望に沿って支援をしている。馴染みの人には、家族に了承を得て面会の支援をしている。現在コロナ禍で、外出や面会を自粛してるが、電話などの取次ぎを行い関係が継続できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室での一人の時間・空間も大切にリビングではご入居者の方同士が談笑し関りが持てるように。個々の入居者の方に合わせ配慮し支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居をされてからもご連絡を頂いた場合は相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員、一人ひとりが日々の関りの中で言葉や表情から思いを汲み取り把握に努めている	入居時に、利用者・家族から思いや意向を把握するとともに、日々の利用者とのかかわりの中から積極的に声掛けし把握に努めている。把握が難しい利用者には表情や態度で把握している。把握した意向や要望は、日々の申し送りノートや口頭で職員間で情報共有し、利用者支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時やご家族からのお聞きしたお話を通して把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、心身の小さな変化にも気づけるように気付いた事を共有できるように細かな話し合いを行い努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日常生活から見出した情報と職員船員の意見から介護計画をたてている	入居時に、利用者・家族から生活歴や意向を把握し、医師や看護師の助言を得て、長期1年、短期半年の援助目標を家族の同意を得て作成している。モニタリングは、毎月行っているが、利用者の状況変化や利用者・家族からの要望があれば都度介護計画の変更につなげる等、利用者のサービス向上に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々の変化を把握し日常の様子を個別に記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身の状況に応じて、適した方法を選択している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加している。また、散歩やお花見・遠足などで地域の方と交流が図れるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や提携病院等ご希望に応じて対応を行っている	利用者の1名が入居前の医師をかかりつけ医としているが、他の利用者は、近隣の医療機関をかかりつけ医として、訪問診療を月2回、同所の訪問看護師の支援を月4回行っている。訪問歯科・精神科・鍼灸師のマッサージを受ける利用者もいる。24時間オンコール体制による緊急時の対応に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護時や電話で報告・相談を行っている。随時、適切な医療が受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・入院中はご家族と共に病状説明を聞き、早期に退院が出来るように話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明を行い、意向の確認を行っている。重度化されたとき看取りを希望されたときには主治医とご家族と話し合いを行い支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、入居時に事業所の指針を以って利用者・家族に丁寧に説明している。必要時は主治医と家族が話し合いを重ねている。食べる楽しみをどこまで維持し支援できるかなど、家族の希望に沿ってその人らしい在り方に取り組んでいる。現在まで看取りした経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施している	定期的に避難訓練を、年2回(消防1回・地震1回)実施している。自動通報装置があり職員の緊急連絡網も整備されている。消防署が近くにあり、災害時や緊急時には直ぐに駆け付けることができる。災害用備蓄品は、米・水・電池・ランタンなど3～5日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の方に応じた言葉で声かけを行うように配慮をしている	介護度の進行や変化で、利用者の思いをくみ取ることが難しい場合でも、利用者一人ひとりが職員の毎日の挨拶や声掛けで充実した日々を過ごせるように心掛けている。職員は、個人情報やプライバシー保護などについて内部研修会を開き職員全体の理解度の向上につなげている。個人情報書類は、鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意見を聞きだせるように関わりを持つように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて食事や就寝時間など希望に沿って支援が出来るように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容やご本人の意向を大切にし好みを聞き出したりと支援が出来るように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じテーブルで食べ和やかな雰囲気ですぐに食事が出来るように努めている	業者から食材を購入し各ユニットで職員が調理をしている。利用者の身体状況に応じてきざみ食・ペースト食を用意している。月1回の手作りおやつではプリンアラモードなどが喜ばれている。おせち料理や夏には流しそうめんを計画し季節感を取り入れている。コロナ禍以前は、ファミリーレストランやケーキ屋へ外出していたが今は中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態にする。水分不足にならないよう把握し声掛けで促し援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、うがいと、定期的な義歯洗浄を実施している。必要な方は歯科往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあわせて声かけや誘導を行っている。	排泄パターン表にあわせて利用者一人ひとりに対応しているが、最近では利用者全員に声掛けをして早目にトイレ誘導をしている。現状より排泄の失敗が進まないように心掛けており、布パンツからリハビリパンツにならないように、また、オムツの利用を減らしリハビリパンツやパッドを利用するなど利用者の排泄の自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量を把握し足りない方などはお好みの飲み物を提供したり、ラジオ体操等運動ができる機会を設けている。チェック表により排泄状態の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な回数は設定しているが、御本人の気分や状態に合わせてすすめている。	入浴は週3回を基本にしているが、状況や状態により柔軟に対応している。入浴拒否の利用者へはシャワー浴に変えたり職員の担当替えや時間の変更など工夫して支援している。浴室内は手すりが多く、安全性が保たれ一人ひとりの湯を入れ替えて清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが好きな時間に寝て動けるよう配慮している。夜間眠れるように昼間の活動時間を考慮することもある。消灯・起床時間は決めずにそれぞれの時間で過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつでも見れるようにファイルをし確認が出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意な掃除や食器洗いなどの家事の役割が決まっていたり、好きな遊びを楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、行えていない。	コロナ禍のため外出を自粛している。現在は、リビングに面したテラスから日光浴や外気浴を楽しむことや、毎月事業所内で趣向を凝らした行事を開催し外出支援に変わる対応で利用者は楽しんでいる。今後は近隣の公園・スーパーマーケットでの買物・外食の機会を広げて五感への刺激や外出支援を模索している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の預かりはないが、自分で支払いたい方には配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は手紙が出せるよう支援し、電話もご家族と相談の上使っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした広さと柔かい照明でくつろげる雰囲気をつくり、季節が感じられる壁画や日本の昔ながらの行事の貼り絵等を貼り出して楽しんで頂いている	リビングは、両面がガラス窓で明るく片方はテラスになっているので自由に出入りができる。ソファやテレビが置かれ本や新聞を自由に読むことができる。壁面にはひまわりの絵画や利用者手作りのカレンダーを飾っており、リビング内は空気清浄機が置かれ四隅の窓を開けるなど換気対策が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループや一人で過ごす場所がほぼ決まっており、御本人が居たい場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の制限はなく御本人の希望に応じて家具などを置かれている。	居室は、クローゼットと洗面台が設置されている。使い慣れたテレビやタンス・家族の写真を飾り居心地の良い居室になっている。各入口のドアに各ユニットごとに花と木の名前が付けられ、ドアのうえに造花が飾られている。定期的に職員が整理整頓を行っており、常に居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人が出来ることは事故がないよう見守り、自由に生活をしていただく。		